

## COC 採択大学 学生・教職員インタビュー (抜粋版)

# 特徴的な事例紹介

高知大学では、COC 採択機関の取組み状況を一括管理し、事業に関する情報発信を広く行っていくため、COC ポータルサイトを開設し、運営しております。つきましては、昨年度に引き続き、COC採択機関の取組みを「特徴的な事例」としてご紹介させていただきます。

今年度は、実際に現場でCOCに深く携わっておられる各機関のご担当者様が、注目している、また、参考にしたいCOC機関とその取組みを挙げてもらい、現場からのニーズをもとに選定し、インタビューを実施いたしました。

(五十音順)

- ・国立大学法人 **岐阜大学** 事業名《 ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学 》
- ・国立大学法人 **宮崎大学** 事業名《 食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成事業 》
- ・国立大学法人 **京都工芸繊維大学** 事業名《 京都の産業・文化芸術拠点形成とK16プロジェクト 》
- ・学校法人松商学園 **松本大学** 事業名《 地域社会の新たな地平を拓く牽引力、松本大学 》
- ・学校法人 **東北公益文科大学** 事業名《 地域力結集による人材育成と複合型課題の解決－庄内モデルの発信 》
- ・公立大学法人 **富山県立大学** 事業名《 「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築 》

…1 枚目 インタビュー記事 (抜粋版)、2 枚目 各機関作成 具体的な取組み事例を記載しています。



本紙に掲載している「特徴的な事例」のインタビュー抜粋版、具体的な取組み事例に併せて、  
インタビュー詳細版は近日 COC ポータルサイトに公開予定です。  
また、全国の COC 採択機関の事業概要や各種取組、イベント情報を  
毎週更新しておりますので是非ご覧ください。

COCPORTAL

検索

<http://www.coc-all.jp/>

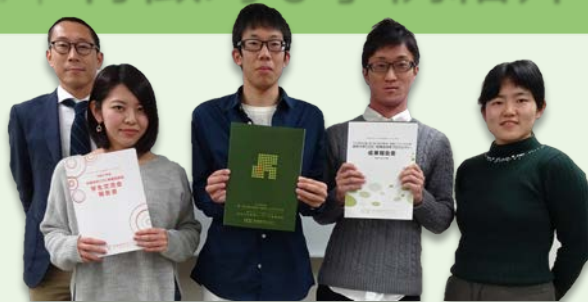




## 国立大学法人 岐阜大学

この方々に伺いました /

- ・地域協学センター 大宮 康一 先生
- ・地域協学センター 塚本 明日香 先生
- ・教育学部 3年 渡邊 由香里 さん
- ・地域科学部 3年 河上 俊一 さん
- ・地域科学部 3年 竹中 悠人 さん



大宮 康一先生 渡邊 由香里さん 河上 俊一さん 竹中 悠人さん 塚本 明日香先生

## COC事業名：ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学

### 地域協学センターの組織について

大宮先生 地域協学センターは、COC事業の採択に伴い、事業の実施支援機関として平成25年12月に新設されました。センターの位置付けは、全学的な組織として、補助期間中の期限付きではなく、補助期間終了後も継続できる組織として設置しています。部局ではありませんが、学生自体を抱えているわけではなく、COC事業を展開するに当たり各部局と連携を取りながら実施しております。専任教員5名、兼任教員は各学部から1~2名で構成され、事務担当部署は、学術国際部社会連携課が担当しております。

### 地域活性化の中核拠点を狙って

大宮先生 センターの活動は「次世代地域リーダーの育成」、「地域志向の推進」、「多様な人びとが集い議論する『場』(大学が主催する「ぎふフューチャーセンター」)の形成」の3つを柱としています。これらの取組みを一層推進させ、地域や自治体、産業界との連携をさらに推し進め、「地域活性化の中核拠点」となることを目指し活動を行っております。

### 多様な団体と連携して地域の課題に取り組む

大宮先生 センターでは、地域コーディネーターとして連携自治体(岐阜県・岐阜市・高山市・群上市)からの派遣が4名、地域のNPO団体で活躍している市民活動関係者が2名、事業推進コーディネーターとしてCOC+の事業協働機関である十六銀行・大垣共立銀行からの出向者が2名、計8名のコーディネーターを配置しています。これら地域の様々な団体との連携を密にし、地域から寄せられた課題の解決に向けて、また地域活性化に貢献する取り組みを積極的に行っています。特に、「フューチャーセンター※」という多様な人たちが集う対話の場を活用しながら、積極的に地域貢献に取り組んでいます。

### 「次世代地域リーダー育成プログラム」について

大宮先生 地域協学センターでの教育の取組みとして「次世代地域リーダー育成プログラム」を全学的に実施しております。このプログラムは、地域を常に意識し、それぞれの専門性を活かしながら地域の課題解決に向けて行動し、地域に貢献できる人材「次世代地域リーダー」を育成することを目標としています。プログラムの履修プロセスとしては、地域リーダーコースの場合、初級段階の科目群(地域志向科目群、地域活動科目群、地域実践科目群)から8単位を修得後、上級段階でより実践的な科目群から4単位を修得することで、プログラム修了者と認定され、修了証が学長から交付されます。また、地域協学センターとの継続的な協働活動を一年以上行い、一定の実績を上げた者に「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与されます。また、このプログラムは、地域の方々にも開かれており、リカレント教育という側面もあります。

※フューチャーセンターとは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ(課題)について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指します。岐阜大学ではこのような地域との対話を創発するためのフューチャーセンターや多様な人との交流ができる空間を構築・運営し、地域との「協学」を推進しています。

### 「次世代地域リーダー育成プログラム」をとおして得た学び

渡邊さん 私が、プログラムを受講したきっかけは、先輩からのお話を聞き、楽しそうだなと思ったからです。今回受講したプログラム内容は、中津川市より依頼を受け、中津川市阿木地区で毎年開催されている「特産安岐そば・シクラメン祭り」のリニューアルに関する取組みを行いました。私たちは、5月から複数回にわたって阿木地区を訪問するなど、地元の人たちと意見交換しながら、シクラメンなどの造花を使った「シクラメン花冠ワークショップ」のアイデアを提案、実現することができました。そして、お祭りをリニューアルするに当たっての課題とされていた、お祭りに訪れる方々の滞在時間を延ばすことや幅広い年代層への拡充等の改善などにも貢献できました。このプログラムを通じて、企画提案の難しさを学び、また、プレゼンテーション能力の必要性を感じ、効果的に伝える方法や聞き手に好印象を与えるコツを考えながらプレゼンする力も身に付けることが出来ました。何より、お祭りに参加された方々が楽しそうにされていることが嬉しく感じましたし、達成感ややりがいにも繋がりました。

河上さん 私がプログラムを受講してみようと思ったきっかけは、受講した友だちの話の聞き、興味を持ったからです。私は「特産安岐そば・シクラメン祭り」のリニューアルに関わるグループのリーダーを務める中で、メンバー間の合意形成・情報共有の重要性を実感しましたし、メンバーのモチベーションの維持も大切だと感じました。

### 中部地区COC事業採択校 学生交流会について

大宮先生 「中部地区COC事業採択校学生交流会」は、岐阜大学が幹事校となり中部地区のCOC事業採択校が集まる情報交換会をとおして提案され、始まったものです。この学生交流会は、COC事業に関連する地域活動に携わった学生たちが互いに発表し合い、他大学の学生同士が交流することにより、COC事業の推進を図ることができればということで現在のかたちになりました。平成26年度から2回開催されており、本学と金沢工業大学を幹事校として、学生交流会の企画・運営を行っています。この学生交流会は、学生にとって良い機会になっていると感じています。なぜなら、自分たちと同じような活動をしている仲間がいることを知り、また、他の取組みを知ることで、自分たちの取組みと比較検討を行うきっかけとなり、互いに刺激し合うとても良い交流の場になると考えているからです。

竹中さん 私は、昨年度、次世代地域リーダー育成プログラムの上級段階で、郡上市石徹白をフィールドとして取組んだ「石徹白ウォークラリー」を企画実施しました。プログラムや学生交流会などの活動に関わることで、考えていることを言葉として表現する力が身に付いたと感じています。

塚本先生 竹中さんの成長は指導に当たる中で、顕著に感じられています。意見交換の場などでの積極的な発言も増えていましたし、地域活動に取組むことで、コミュニケーション能力やプレゼン力の向上に繋がっていると実感しています。

## 岐阜大学フェア in 高山における「ぎふフューチャーセンター」の開催

### 「ぎふフューチャーセンター」とは…

岐阜大学が COC 事業の一環として取り組んでいる、大学、地域、自治体がともに地域の課題を探り、未来に向かって新しい価値をつくる対話の「場」。大学関係者や学生だけでなく、様々なメンバーが集まって地域の未来について語り合い、アイデアや解決策を創出して地域に貢献している。およそ月に1度のペースで開催しており、平成28年度は14回実施した。

<平成28年度開催実績(抜粋)>

- 5/27 岐阜大学-岐阜市主催「若者よ、投票に行こう2」
- 11/16 岐阜大学-郡上市主催「ジビエ肉が家庭で食べられるようになるには」
- 1/23 岐阜大学-高山市主催「地域リーダーとして地域貢献」
- 2/21 岐阜大学-岐阜県主催「現場で探る、商店街の課題と可能性-多治見ながせ商店街-」



ひだでステップ×ひだにプラス  
学び、究め、貢献する大学

# 岐阜大学フェア in 高山

2016年11月12日(土)・13日(日)  
10:00-17:00 9:30-14:00

【会場】飛騨・世界生活文化センター ウェルカムプラザほか  
〒502-0022 岐阜大学東山キャンパス 1号館4階 404号室

参加無料

聴く 触れる 話す

岐阜大学の教育・研究・社会貢献活動の成果を学生や教員が分かりやすくご紹介します。  
大学の「声」を知れる機会です(多くの皆様のご参加をお待ちしております)。

飛騨の教育・文化・産業・観光・環境・福祉・健康・スポーツ・国際交流・地域貢献  
飛騨の未来を担う若者に向けて～

TEL: 0576-253-2461  
TEL: 0576-253-2461  
TEL: 0576-253-2461

岐阜大学 COC 採択大学

### 岐阜大学フェア in 高山

岐阜大学フェアは平成21年から毎年、広く一般の方を対象として岐阜大学の活動を知ってもらいイベントとして開催してきた。平成28年はCOC+の高大連携事業の一環として位置付け、飛騨地域の高校生や保護者を対象として高山市内で実施した。

会場ではパネル展示による各学部等の紹介、模擬講義や体験学習、学生の活動紹介、地域の課題解決や問題の発掘などに向けて推進している「地域志向学プロジェクト」の研究報告等の企画が催された他、「飛騨地域と岐阜大学のつながりと連携のあり方～次世代を担う若者に向けて～」と題して飛騨地域の4首長及び岐阜大学長がパネルディスカッションを行った。

このパネルディスカッションの開催に先駆けて、地域住民と学生が岐阜大学と地域との繋がりについて考える場として「ぎふフューチャーセンター」も開催している。

### ぎふフューチャーセンター@岐阜大学フェア in 高山

#### 「市民と学生が、岐阜大学と地域のつながりについて考える～次世代を担う若者に向けて～」

このぎふフューチャーセンターでは飛騨地域の高校生11人、飛騨地域の4自治体の職員8人、岐阜大学生5人の合計24人が参加し、次世代を担う若者の視点に立って飛騨地域と岐阜大学の未来にむけたつながりや連携のあり方について語り合った。ここで出された意見やアイデアは翌日のパネルディスカッションで、参加者の高校生2人が代表としてパネリストに向けて発表した。

<各グループからの意見・アイデア>

- ・岐阜大学生と地域の交流の場を増やしてほしい
- 「岐大 Week の設置」「大学の講義が聞きたい」「留学生との交流」
- ・岐阜大学と一緒にまちづくりに取り組んでほしい
- ・飛騨地域に4年制大学を作してほしい
- ・大学生や研究者等に眠っている観光資源や森林資源を活用して欲しい







国立大学法人

宮崎大学

鈴木 直さん

早川 公先生

この方々に伺いました /

- ・理事 (研究・企画担当) 水光 正仁 先生
- ・副学長 (産学・地域連携担当) 兼 みやだいCOC推進室長 國武 久登 先生
- ・地域資源創成学部 講師 山崎 有美 先生
- ・みやだいCOC推進室 特任助教 早川 公 先生
- ・みやだいCOC推進室 事務補佐員 金友 麻莉那 さん
- ・みやだいCOC推進室 教務補佐員 東 沙樹 さん
- ・産学・地域連携課 専門職員 鈴木 直 さん
- ・農学部応用生物科学科 3年 西川 奈菜 さん



西川 奈菜さん 水光 正仁先生 國武 久登先生

COC事業名：食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成事業

地域に関する学びや活動を認定「地域活性化・学生マイスター制度」

國武先生 「地域活性化・学生マイスター制度」は、宮崎県内の産学官が協力して実践する地域活性化を担う人材育成のための教育プログラムです。マイスターカリキュラムは、初級と上級の2種類あり、認定までに初級は18単位、上級は24単位（他学部の地域科学系専門科目を含む）と卒業論文が必要です。これは他学部で学ぶことで、知識や人間関係に広がりを持たせるためです。また3年次の「地域デザイン概論Ⅱ」では、学生に地域政策について企画をしてもらい、自治体職員や地域の方々に発表することもしています。現在のところ、初級150名、上級20名の認定を目指しています。マイスターについては、本来卒業時に認定することになりますが、そうすると就職活動等で活用することができないため、3年次にマイスター候補生として認定を行います。認定されると、連携先の専門学校が実施する公務員講座の割引や、上級の場合は宮崎大学の職員採用試験の一次試験免除等のインセンティブがあります。また、現在は、賛同頂いた地元企業の一次試験が免除となる仕組みができなにか検討しているところです。

マイスター制度の成果・寄附講座の設置

國武先生 宮崎大学として初となる、民間企業からの寄附講座を来年度より実施することになりました。地域交流のための建物を建設する予定もあり、地域からの理解が形になってきています。  
水光先生 これを受けて、他企業や県からも寄附講座の申し込みがあり、一定の成果が上がってきていると感じます。

マイスター制度からの学び

西川さん 私は新入生オリエンテーションのときに、先生方がマイスター制度によって資格が取得できること、地域で活動できること、制度を通じてなれる人材像や具体的な活動内容を説明してくれたことで興味を持ち、地域に対して自分にどんなことができるかと考え、受講しました。マイスター関連科目を受講してみて、地域の人たちと関わることが印象的でした。講義を通じて知り合った地域の方が新聞等に出ているのを見ると、つながりを感じ、嬉しく思います。また他学部の学生とコミュニケーションを取ることができるので、異なった考え方を学ぶことができ、多面的なものの見方ができるようになりました。

学生のアイデアで、地域の課題を解決

西川さん マイスター上級の科目で、温泉プロジェクトに関わっています。西都市の温泉を地域の魅力として発信するために、貴重な意見を頂ける方々を探してヒアリングを実施し、企画をまとめています。  
國武先生 西都市からは、温泉を活用した地域活性化に関する相談があり、連携協定も締結しました。学生視点のアイデアを提案しながら、教員の研究ベースでの関わりも実施しています。  
早川先生 学生にはPBL (Project Based Learning=課題解決型学修)の一環として、連携自治体にて活動してもらっています。地域からのテーマに対して、各学部の学生がそれぞれ学んだことを活かして企画できるよう指導しています。

宮崎の資源を活かす「みやだいCOCフーズサイエンスラボラトリー」

山崎先生 COCラボは、地域農畜水産加工実習室と食品成分分析実習室の2室で構成されています。学内に新たに食品加工施設を設置し、食品分析機器を集約させたことで、重点的に食品開発を学べるようになりました。COCラボの活用例としては、「宮大美食倶楽部宮☆シユラン」があります。地域の農作物を使った食品を、学生と地域の人が協働で試作し、開発した食品の評価を行うものです。また、学生が家畜の解体から試作品開発、イベントで地域の方々に提供するところまで一貫して学ぶという講義を開講しています。その他にも、留学生への日本の食文化体験として、伝統料理と一緒に作り、試食したり、社会貢献イベントとして公開講座の開講や中高生向けの食育講座、社会人の学び直しとしてオープンカレッジ講義を開講しています。宮崎の資源でもある地域の農作物を使った食品開発や食育等を通して、「地域の食」に関する学びを、引き続き総合的に推進していきたいと思っています。

宮崎大学地域貢献状況マップの公表

國武先生 宮崎大学では、全教員の地域志向活動について、年2回(9月、2月)の教員アンケートをもとに、地理情報システムにプロットし、ホームページ上で公開しています。現在は年間1,100件ほど報告が挙がっています。このシステムは、宮崎大学の地域におけるシンクタンク機能の指標として活用しており、また地域貢献活動をポイント化することで、教員の評価にもつなげていくことを目的としています。

COC事業で、全学の意識が変わった

水光先生 COC事業を通じて分かったことは、待つだけではなく大学が自ら地域に出っていく必要があるということです。大学が地域と関わり、事業について地域全体に理解して頂くことで、地域が求める人材を育成する大学という形がうまく機能していくと実感しています。  
國武先生 COC事業を実施していく中で、COC事業は地域貢献事業ではなく教育事業だと改めて認識しました。そのためには各学部との協力が不可欠であると考え、学生支援部との連携をより強化することとしました。多様な人材の集まりである大学組織の教育システムを変えていくことは困難でしたが、宮崎大学にとってCOC事業は全学の意識を変える良いきっかけになったと感じています。



山崎 有美先生 東 沙樹さん 金友 麻莉那さん

# 大学の取組を見える化する「地域貢献 MAP」の作成 (ArcGIS)

## 宮崎大学みやだい COC 推進機構



宮崎大学  
平成 27 年度 地域貢献状況MAP  
地域との特徴ある取組

さらに、取組分野別に特徴ある取組を公開して地域に紹介。

### 五ヶ瀬産『乾しいたけ』～地域食資源活用プロジェクト～

地域資源創成学部 講師 山崎 有美

五ヶ瀬産『乾しいたけ』～地域食資源活用プロジェクト～

研究の背景及び目的

【これまでの取り組みと今後の展望】

【乾しいたけ判別試験】

【乾しいたけ食品の開発】

【乾しいたけの活用】

【乾しいたけの活用】

### <概要>

- ・ 学内の地域貢献を毎年半期ごとに調査
- ・ H26 : 973 件 → H27 : 1185 件 (約 21%の取組数の増加)
- ・ 各学部、組織ごとの取組数が可視化されることで、地域に関わる意識の向上を図る
- ・ 自治体別、分野別取組を整理し、地域における大学全体としての方向性を分析 (IR)
- ・ 現在、学内データベースとの接続を整理中
- ・ 将来的には、教員評価に活用を想定





## 国立大学法人 京都工芸繊維大学

「この方々に伺いました」

・COC推進拠点長(理事・副学長)	大谷 芳夫 先生
・副学長補佐	高畑 哲 先生
・COC推進拠点特任准教授	津吹 達也 先生
・応用生物学系准教授	井沢 真吾 先生
・材料化学系准教授	塩野 剛司 先生
・物質・材料化学専攻 D2	Jiraprabha Khajornboon さん
・応用生物学専攻 M1	穂本 聖奈 さん
・材料創製化学専攻 M1	有川 純 さん
・材料創製化学専攻 M1	高橋 雅弘 さん
・デザイン経営工学課程 2年	中原 良太 さん
・高分子機能工学課程 4年	森田 直樹 さん
・高分子機能工学課程 4年	松村 凌太 さん



学生・教職員インタビューの様子

### COC事業名：

共同申請校 舞鶴工業高等専門学校

## 京都の産業・文化芸術拠点形成とK16プロジェクト

### 小学校から大学までの学校教育を見据えた「K16プロジェクト」

**大谷拠点長** 本学COC事業の柱の一つに「K16プロジェクト」があります。これは小学校から大学までの学校教育16年間の中で、地域社会の人材ニーズを踏まえ大学教育のあり方を見直す「教育カリキュラム改革」と「小中高連携」からなるプロジェクトです。

#### 【教育カリキュラム改革】

#### 地域に役立つ工学系人材「TECH LEADER」を養成

**大谷拠点長** 小学校から大学までの学校教育16年間を踏まえた教育カリキュラムを考えるにあたっては、地域が必要とする理工系人材像を明確にする必要があります。そこで、地域企業へのアンケートやグローバル人材に関するヒアリング等の調査結果をもとに議論を重ね、およそ3年をかけて必要なコンピテンシーを明確にしました。その「工織コンピテンシー」(4つの能力)を備えた人材像を「TECH LEADER」と名付け、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに反映させるとともに、学生の履修要項に記載して、学生が「TECH LEADER」の人材像を意識して履修できるように工夫もしています。また、COC事業採択を機に、地域に関する科目を24科目設定(平成27年度実績)し、卒業要件に加えるとともに、「TECH LEADER」の基本的素養を身につける科目としても位置付けをしています。

#### 地域に関する科目から得られた学び

#### 【参加した学生の声】 中原さん・森田さん・松村さん

地域に関する科目を受講したことで、日本古来の価値観やモノを大切にすることの重要性を再認識しました。それがこの京都にはたくさん残っています。授業を通じて引き出しが増えたと思います。デザインなど今後の自分の作品に活用できますし、直接的ではないにせよ、地域の価値観を学ぶことができたと感じています。

#### 【地域貢献加速化プロジェクト※】

#### 京丹後のバイオリソースと発酵技術を生かした発酵食品の開発

**井沢准教授** このプロジェクトでは、藤の花から酵母や乳酸菌をとりだし、日本酒やヨーグルトなどの商品開発や、乳酸菌等を培養してプロジェクト参加企業に供給しています。また、POPやロゴシールなどのデザインをマーケティング調査結果をふまえて作成するなど、デザイン分野の教員との連携もはかりながら取り組んでいます。このプロジェクトを通じ、学生への教育効果の大きさを実感しているところです。

#### 【参加した学生の声】

**穂本さん** 将来は食品開発に関わる仕事に携わりたいと考えていますが、このプロジェクトに参加し、一連の開発行程を体験したことで、具体的に自分がどの工程に興味を持ち、価値を創出していけるか等を明確にすることができたと感じています。また、地域が抱える不便さなどの課題や地域の特産品や素材等についても意識を持つようになりました。

※地域貢献加速化プロジェクト:「研究」により工学分野の知を活かして地域課題の解決に取り組み、「社会貢献」により市民のみならず工学的「知」を提供します。学内で公募した活動により、教員と学生が中心となって、地域の振興に取り組んでいます。

### 【小中高大連携】連携を通じて大学の魅力を発信

**高畑副学長補佐** K16プロジェクトでは、小中高大連携に取り組んでおり、本学では、教員を学校に派遣する出前授業と、大学で子供たちに授業を行う受入授業といった体験授業を積極的に実施しています。また、平成28年11月12日には京都府のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)を中心とした、京都スーパーサイエンスネットワーク(SSN)9校による、京都サイエンスフェスタを開催(共催)しました。京都の理数科生徒約700名が一同に会してのポスターセッション等を本学で行いましたが、大学教員や大学施設等を知ってもらい、大学の魅力を発信できるこのような機会は、大学の入り口を意識してもらって非常に大きいと考えています。いずれも京都府教育委員会と連携した取り組みですが、小中高大連携はいかに行政機関を巻き込むかにかかっていると云えます。

#### 高校生への指導を通じて学生の学びに繋げる

**塩野准教授** 理科離れの改善と高校生の進学意識向上のために、高校に出向き、化学の体験実験や模擬授業を実施しています。生徒の学習指導を通じて、学生自身が学び、研究や将来の進路などに役立ててもらおうことを目指しています。

#### 【参加した学生の声】 有川さん・高橋さん・Kha.jornboonさん

高校生はどうしてこんな現象がおこるのかを実験を通じて楽しみながら理解していました。自身も指導しながら、そんな様子を見ることができ嬉しかったです。質問も積極的で、化学のことだけでなく、大学のことや入学動機、進路のこともあり、高校生に大学というものを感じてもらえたのではないかと思います。この授業では、如何に相手のことを考え、物事を伝えていくかを考えさせられました。これは今後の就職活動やその後の社会で活かしていけるものと考えています。

### 共同申請校との連携「舞鶴工業高等専門学校」

**大谷拠点長** 本学のCOC事業は、舞鶴高専との共同申請としてしています。これは地理的、学問的な部分で、互いに補完可能な関係性を有し、地域からの様々な要請に応えることができるからです。

**津吹准教授** COC共同授業として、リーダーシップ開発の授業を舞鶴高専と共同で実施しました。これは「schoo」を利用したweb講義と、実際に学生同士が顔を付きあわせ、高専生6名のグループに本学学生1名がテーブルファシリテーターとして付く共同のワークショップで構成しています。「リーダーシップ基礎」を受講中の学生が、そこで学んだことを高専生に教えるということですが、大学の低学年時は、人に何か伝えるという機会が少なく、TAも高学年にならないと機会に恵まれないことから、こういった授業は互いに貴重なものであり、今後、大学生が地域に入る際の、コミュニケーション力やファシリテーション力の養成に寄与するとともに、その応用にもつながるものと考えています。この取り組みは、本学及び舞鶴高専の学生から非常に高い満足度を得ることができました。

**ヤマムユから自然環境を考える** <理数教育支援、公開講座>

**京都産昆虫種の系統化による保護活動と活用を目的とした環境研究教育の基盤構築**

(2014年度から 2016年度 地域貢献加速化プロジェクト)

応用生物学系 齊藤準 准教授

京都産ヤマムユ類を中心とした昆虫を素材として、子どもから大人まで、さまざまな企画を通じて、地域の自然環境を活かした環境教育、環境学習を展開しています。

**ミニ昆虫展**

夏休みの期間、ヤマムユやオオミズアオなど野蚕（やさん）の生体展示を行っています。2016年は営繭（えいけん）する経過も見ていただきました。子どもから、中学生、高校生、本学学生、大人まで、さまざまな世代の方が自然に触れ合うことで環境を考える糸口になっています。



**昆虫教室**

小学生3～6年生を対象にした教室では、ミニ昆虫展を見ていろいろな違いを学んだうえで、標本作りに挑戦していただきました。



**自然観察会**

初秋には、親子で参加する観察会も実施しました。こちらも標本などで学習したのち、実際に野山で昆虫を採集。その後、図鑑で調べたり、スケッチしたりしながら、昆虫の色や形、機能を学んでいただきました。

**出前授業**

京都府教育委員会のプログラム「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」の一環として、京都府北部の小学校に標本を持ち込み、座学の後、近隣の公園で昆虫採集をしました。地元松ヶ崎小学校では、授業に関連してヤマムユの生体展示も行いました。



**公開講座**

**「ヤマムユと呼ばれる虫たちの世界」**

**「野蚕と呼ばれる虫たちの世界」**

京都のヤマムユを始め、野生で繭を作る絹糸昆虫、野蚕は、貴重な糸として高価なものとなっています。実際に撚糸（ねんし）を取り扱っている職人さんや、環境保護活動を行っている公益社団法人京都市都市緑化協会の方々に講師に招き、昆虫から製品、さらには自然環境まで考えていただく機会となっています。



**成果**

自治体など関係機関との連携：京都府教育委員会、公益社団法人京都市都市緑化協会との連携  
地元、松ヶ崎や北山周辺の里山について学習する貴重な機会を提供

**学生の声**

企画、運営を補助する学生にとって、自身の学習や研究への意欲を高めるきっかけとなっています。

「最初のうちはこちら側が伝えたいことと来場してくださった方が知りたいことを、うまく組み合わせながら伝えるのが難しかったです。自分の説明を聞いて、感心して下さる方がいると、とてもやりがいを感じることができました。

「たかが虫」という目線から、少し目線を変えて、昆虫たちの魅力を感じてもらえるように工夫しようと努力しました。来場者から「昆虫について調べて何になるのか」「どういった研究を何の目的でしているのか」といった質問をされる機会が思っていたよりも多く、自分の研究目標や、どういうことを調べていきたいかを考え直すきっかけになりました。

本学の学生、教員の方も数名昆虫展に来場していただきましたが、自分も含めて同じ大学で行われている他分野の研究についてあまり知らなかったり、かなり無関心になりがちであったりすることにあらためて気付きました。お互いの研究についてよく知ることができるような学内のイベントがあれば是非参加したいと思っています。」（応用生物学課程 4年次）



「まだ知識も浅かったので、オオセンチコガネの飼育下での寿命を聞かれて困りました。来場者は、こちらが何でも知っているという前提で話されるので、勉強不足だったなと感じました。先輩や先生が話されたことを参考に、説明できることは積極的に説明しました。」

（応用生物学課程 1年次）





## 学校法人松商学園 松本大学

この方々に伺いました /

・学長	住吉 廣行 先生
・地域連携戦略会議議長	木村 晴壽 先生
・地域づくり考房『ゆめ』運営委員長	廣瀬 豊 先生
・地域連携戦略会議事務局	赤羽 雄次 課長
・地域づくり考房『ゆめ』事務局	上川 由香里 さん
・人間健康学部 健康栄養学科	4年 野村 結衣 さん
・人間健康学部 健康栄養学科	4年 長谷川 円佳 さん
・人間健康学部 健康栄養学科	4年 北澤 里緒菜さん
・人間健康学部 スポーツ健康学科	2年 坪木 美桜 さん
・人間健康学部 スポーツ健康学科	2年 尾方 美穂 さん
・総合経営学部 観光ホスピタリティ学科	2年 塚田 慎吾 さん
・人間健康学部 スポーツ健康学科	4年 松永 大空 さん

塚田 慎吾さん 野村 結衣さん 坪木 美桜さん 北澤 里緒菜さん



COC事業名：松永 大空さん 長谷川 円佳さん 尾方 美穂さん

### 地域社会の新たな地平を拓く牽引力、松本大学

#### 「“幸せづくりの人”づくり」「地域の必需品」と称し、 地域課題に挑む大学

住吉先生 本学教職員が皆なぜ、同じ「地域立大学」という認識を持っているのかと申しますと、大学設立時の経緯があるからです。松本大学は、長野県、松本市と学校法人松商学園が3分の一ずつを出資し、松本広域連合からの補助も得て、平成14年4月に開学しました。その為、地域密着とか地域に出て課題に取り組むことに限っては、皆、異論がない状況で進んでいます。

#### 地域からの窓口「地域健康支援ステーション」

赤羽課長 「地域健康支援ステーション」とは、所長、専任の管理栄養士と健康運動指導士、事務職員で構成され、活動に応じて学内の教員を指導教員として配し、希望する学生を募って活動を行う本学の地域貢献窓口のひとつです。活動は、地域からの依頼を受け、管理栄養士や健康運動指導士等をめざす本学の学生の育成に寄与できるものを優先的に受託し、地域課題に取り組んでおります。

#### 「地域健康支援ステーション」での学び

野村さん 私たち（北澤さん・野村さん・長谷川さん）の取組みは、地域の企業から依頼を受け、社員食堂のヘルシーメニューの提案を行ったことです。この地域活動から、対象者に合った栄養指導方法を学ぶことができました。

北澤さん 私が、この地域活動をやり切ることが出来たのは、地域に出向いてヘルシーメニューを提案する際に、地域の方々の迎え入れてくれる雰囲気がとても良かったこと、そして、この方たちとともにより良いものが提案できればという想いがモチベーションに繋がったと感じています。

坪木さん 私たち（坪木さん・尾方さん）の取組みは、近隣市町村から高齢者の健康づくりのための運動指導の依頼を受け、体力測定や介護予防運動を実施するというものです。この地域活動を続けられているのは、運動指導を行っている際に、地域の方々が清々しい表情を見せてくれた時にやりがいを感じるからです。

尾方さん この地域活動に参加したことは、良い経験になっていると思います。なぜなら、体力測定の数値を見ながら、対象者に合った指導を行うことで、地域の高齢者の方々の健康寿命向上に繋がっていることを直に学べている点です。

#### 地域課題解決を目指す

#### 「アウトキャンパス・スタディ」について

木村先生 「アウトキャンパス・スタディ」とは、正課教育の一貫として、ゼミナールで教員とともに地域課題に取り組んでいる活動のことをいいます。この活動では、地域課題の完全な解決を目指し活動を行っております。

#### 人と地域と大学を結び、 地域づくり考房『ゆめ』について

上川さん 「地域づくり考房『ゆめ』」では、学生の自主性・主体性を重んじながら、地域のネットワークの中で様々なプロジェクトを展開するための拠点として、学生による地域活動の支援を行っております。

塚田さん 私は、ええじゃん栄村という学生プロジェクトで地域活動を行っています。ええじゃん栄村は2011年に発生した長野県北部地震で大きな被害の出た栄村の復興支援・地域活性化を行っているプロジェクトです。今年のええじゃん栄村の活動としては、栄村で取れる山菜イタドリを活用したレシピ集の提案を依頼され、作成を行いました。完成後は、栄村を訪問し、提携先の方や栄村の公共の場でレシピ集の配布を行いました。新聞にもその内容が掲載され、それが反響を呼び、長野県内各地の方々からレシピ集を発送してほしいという声を頂きました。また、御礼の手紙なども頂くことができました。そして、今年度の食と農林漁業大学生アワードに応募し、みごと最終審査（プレゼン審査）まで進むことができました。

松永さん 私は、Signという学生プロジェクトで地域活動を行っています。Signでは聴覚障がいについて、自分たちが理解したものを啓発していくという活動を行っています。最初は手話を読み取ることができなかったのですが、活動に参加することで、手話を学び、より多くの方とコミュニケーションを取ることができるようになりました。来年から社会人として、この活動を通じて得た経験を活かしていきたいと思っております。

廣瀬先生 松本大学では、「地域づくり学生チャレンジ奨励制度」があり、学生の自主事業の助成として、学生個人またはグループによる地域活動に対して、審査を実施し、1年間で1件あたり最大10万円の助成を行っています。このことが、学生たちの地域課題に取り組む意欲や自主性、持続性に繋がっていると考えています。

木村先生 学生の自主性を引き出し地域活動を持続させるためには、地域住民や地域の大人たちが、学生の地域活動を認めてくれることが、重要になってくると思います。地域の方から、認められ必要とされることで、学生は自然と自主的に組織を立ち上げ地域活動を行うようになります。そうなれば、あとは学生の地域活動をサポートしていただくだけです。



廣瀬 豊先生 木村 晴壽先生 住吉 廣行先生 上川 由香里さん 赤羽 雄次課長

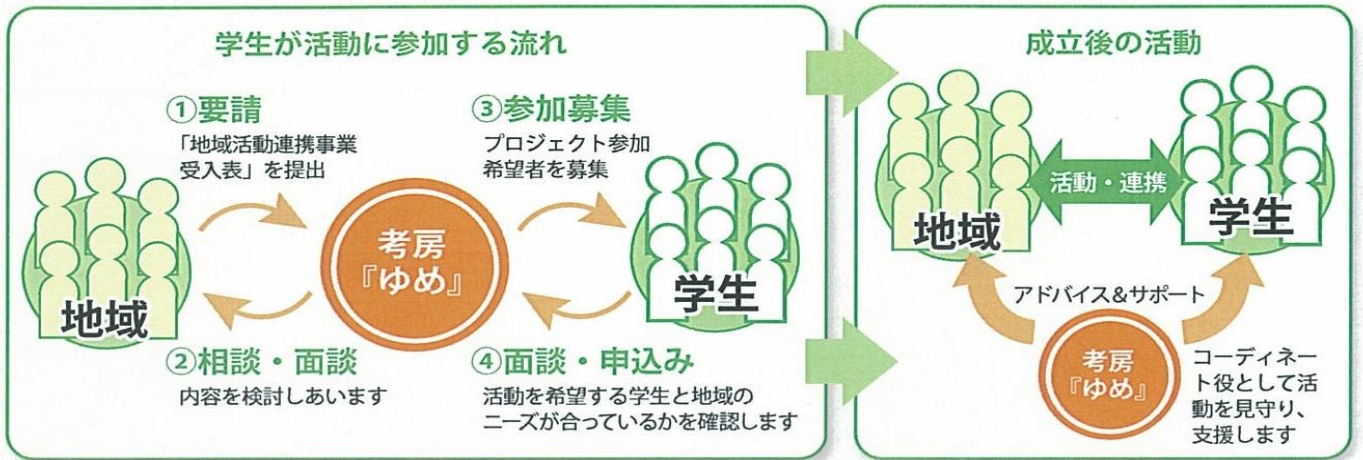


## 地域づくり考房『ゆめ』の活動内容

活動事例 Vol. 1

### 地域で企画される活動への参加・支援

学生と一緒に活動をしようと考えている地域団体が企画・主催するプロジェクトに学生が参加します。地域の方々の考えを知り、行動していくことで社会貢献をしていきます。



活動事例 Vol. 2

### 学生の関心、問題意識から生まれた企画実践

地域の中で「できること」「やりたいこと」を実践するために、学生同士でプロジェクトチームを作り地域と連携した活動を進めていきます。



Sign



松風連

活動事例 Vol. 3

### 地域との協働でプロジェクトを企画実践

地域と連携し、地域のニーズをともに考えてプロジェクトを立ち上げ、その実行に責任を持ってあたります。



新鮮☆ゆめ市場



米粉 PROJECT

活動事例 Vol. 4

### 地域づくり考房『ゆめ』の自主事業

- 松本大学地域づくり学生チャレンジ奨励制度  
松本大学の学生個人またはグループによる地域活動に対し、条件を満たしたプロジェクトを審査し、最高10万円までの助成をします。



公開審査会の様子

1件あたり最高

**10万円**

を助成

- とも学び講座

学生と地域の方々がともに学び、ともに高めあう「地域活性化プログラム」です。

- ・松本大学地域づくりコーディネーター養成講座
- ・地域づくりセミナー、フォーラム
- ・まちの縁側づくり楽会
- ・ファシリテーション講座
- ・地域づくりコーディネーターサロン他

地域に役立つ人材を育成





## 学校法人 東北公益文科大学

＼この方々に伺いました！

・庄内オフィス長	准教授	鎌田 剛 先生
・庄内オフィス長補佐	特任講師	皆川 治 先生
・庄内オフィス長補佐	特任講師	山口 泰史 先生
・COC+コーディネーター	特任講師	小野 敦 先生
・公益学部公益学科	2年生	三部 歩 さん

これからの庄内を考えると楽しい。 学生・教職員インタビューの様子



## COC事業名：地域力結集による人材育成と複合型課題の解決－庄内モデルの発信

### 社長という「人」から職業観や人生観を学び取り社会人力を養う 「社長インターンシップ」

**鎌田准教授** 社長インターンシップのコンセプトは人を通して職と向き合うというもので、学生が企業で業務を体験することに主眼をおくものではなく、社長という人物から学ぶという実習です。学生に、働くことの意義、地域で働くこと、経営者の考え方を学び取ってもらいたいと考え、地元企業でつくる後援会との実質的な連携のもと、事業化することにしました。このインターンシップでは、学生に社長のかばん持ちとして行動を共にしてもらい、出社しての朝礼から、企画会議、商談、来客者対応、雑務等いたるまで社長に帯同していくこととなります。中には、得意先との会食や出張への同行、さらには社長宅へのホームステイまで受け入れて下さる場合もあります。

#### 社長に密着することで得られる気づき

**鎌田准教授** 学生の振り返り学習でも、社長が意思決定するため、情報収集や事前調整、そして対外的交渉など、決断するための様々な過程を踏んでいることを自身の学びとして捉えています。これはお茶くみや、事務作業の中でも社長の隣で密着しているからこそ得られた気づきであろうと考えています。

#### 社長インターンシップと就職について

**小野コーディネーター** 社長インターンシップを受講した卒業生は37名で、結果としては、全学的な県内就職率と同率程度です。まだ数年間・数人の傾向ですので、継続的にデータを取っていく必要があると思います。インターンシップに参加する学生は、比較的チャレンジ精神があり、かつ優秀な学生が多い傾向がありますが、そういう学生は、就職の選択肢も増え、県外にチャレンジするといった傾向もあるかと思っています。

### COCからCOC+へ

**鎌田准教授** 社長インターンシップは、COCから、COC+に位置づけており、学生の県内定着を目指すこととしています。後援会企業さんとも一緒に地元で定着してもらうために大学に何ができるか、今後拡充させていかなければならないと考えています。

#### 社長インターンシップ受講のきっかけ

**三部さん** 自分自身の課題として、将来のビジョンがまだ固まっていないことがありました。そんな中、大学の授業で社長インターンシップというプログラムがあることを知りました。社長から直接学べるということ、受入先の企業にも自身が興味を持っている接客関係の業種があったことから、将来を考えるきっかけができるのではないかと思います、地元の老舗旅館での社長インターンシップに参加しました。

#### 印象的な出来事

**三部さん** 印象に残っている業務としてはお皿洗いを通じて実感したことがあります。インターン当初は、かなり迷惑をかけていましたが、社長からのアドバイスも頂いたおかげで、シンクや料理を運ぶ台車等、どこにどうスペースを空けておくのか等、効率よくスピーディーにかつ全体を見て、すべきことを考えることの重要性を、自らの体験を通じて理解できたことが印象に残っています。また、私は働くことに理由を求めていましたが、社長から人生観、職業観を伺う中で、働くことはあたりまえのことで理由は考えていないと伺い、社長ともなると、あまり細かな所を気にしてはなりたないのだと、自身の発想と異なったことが印象に残っています。

### コワーキングスペース(UNDERBAR)の設置

**皆川特任講師** COC事業で設定している7つの課題の一つに「就業機会・雇用の創出」という課題があります。酒田市との連携事業である「コワーキングスペース(UNDERBAR)」事業では、起業家を育成すべく、酒田市から800万円の委託費のもと、社会人や学生(会員制)が自身の業務や勉強を行いながらも、互いにコミュニケーションを図り、様々な情報やアイデアを共有、新たな事業や働き方などを創出していく場を酒田市と連携して創出しています。「コワーキングスペース(UNDERBAR)」については、理事長を塾長とする「庄内経営者塾」という取組みを平成26年度から実施してきました。この取組みを進めていくうちに、実際に起業まで結び付けていく場が必要だとの結論に至りました。そんな中、酒田市における地方創生施策(地域から新しい産業を生み出す担い手を育む拠点づくり)の話へと繋がり、平成27年度、キャンパス内にある酒田市公益研修センターの一室を改修し、コワーキングスペース(UNDERBAR)を整備することになりました。おかげさまで利用度も、昨年度の半期で992人であったところ、今年度は有料化したにも関わらず、1,441人(145%増)と大幅に伸びています。

### 日本地域課題解決学研究会の設立と 地域課題解決全国フォーラム in 庄内の実施

**鎌田准教授** 地域課題はますます深刻化、複雑化しており、解決していくためには、研究者のみならず、行政、企業、各種団体、学生、地域住民等、多方面の方々の知恵が必要になってきます。そのため、地域課題の解決に関心を持つ方々が集まり、活発な議論を行うための「場」が必要であることから、COC事業の採択を機に、本学が地域課題について、様々な立場の方が意見交換できる日本地域課題解決学研究会を設立することとしました。研究会とした理由は、研究一辺倒の場では無く、多様な主体に開かれた場、地域課題の解決のみならず、人づくりの場、としても活用していくためです。年に一度開催している「地域課題解決全国フォーラム」を研究会活動と位置づけ、COC事業として実施をしています。フォーラムはこれまで3年連続で開催しており、基調講演やパネルディスカッション、ワークショップ、さらには実践・研究報告等のプログラムを実施しています。実践・研究報告は、平成26年度が24件、平成27年度が33件、平成28年度が32件あり、内容は様々ありますが、フォーラムの報告書として、それらを取りまとめ、全国に発信をしております。

# 東北公益文科大学「地域共創コーディネーター」養成

山形県庄内地域では、様々な課題解決に取り組むために、より多くの人の対話と参画が求められています。そこで平成 27 年度から連携自治体の一つである鶴岡市の補助を受け「地域共創コーディネーター養成プログラム検討委員会」を開催。官民協働による地域人材育成のためのプラットフォームの構築に向け検討を進め、28 年度からは、多様なメンバー間で対話を進めることができる“ファシリテーション”と、多様なメンバーによる連携や協働による課題解決の実践を仕掛けることができる“コーディネーション”の力を身につけた「地域共創コーディネーター」の養成を行うプログラムを開講しました。

## ファシリテーション研修

東北公益文科大学大学院科目「共創の技法」の受講 (90 分×15 回を 5 日間に分け実施)

## コーディネーション研修

「ボランティアコーディネーション力検定 3 級」講座を中心とした連続講座の受講 (90 分×7 回を 3 日間に分け実施)

フォローアップ

## 実践

- ・地域課題解決のフィールドにおけるファシリテーション、コーディネーションの実践
- ・プログラムで紹介する様々な場での活動など



グループワークによる企画立案



多様な受講生による学び合い

28 年度は、10 代から 60 代の学部生、大学院生、NPO スタッフ、行政職員、企業関係者、医療・福祉関係者、市議会議員、地域おこし協力隊員、コミセン職員等の第 1 期「地域共創コーディネーター」を 32 名輩出しました。早速、数多くの地域課題解決の現場での実践や受講生同士のネットワーク構築による連携と協働が進んでおり、今後は、このように様々なバックグラウンドを持つコーディネーターを核として、地域力結集による地域の複合的な課題への取り組みを本格化していきます。

【受講料詳細】 一般 (36,000 円) 本学大学院生・学部生 (6,000 円)

※内訳：ファシリテーション研修「共創の技法」(本学大学院科目) 受講料 30,000 円、コーディネーション研修「ボランティアコーディネーション力検定 3 級」テキスト代・検定料 6,000 円。(本学大学院生・学部生は「共創の技法」の受講料負担なし)





## 公立大学法人 富山県立大学

この方々に伺いました /

- ・COC統括コーディネーター 奥田 實 先生
- ・COCコーディネーター 堺 勇人 さん
- ・教務課 情報研究係 上田 明美 係長
- ・環境工学科 4年 川崎 稀文 さん
- ・情報システム工学科 4年 大巻 翔 さん
- ・情報システム工学科 3年 榊原 拓実 さん
- ・情報システム工学科 3年 安久 昌和 さん



安久 昌和さん 【榊原ゼミ所属】 大巻 翔さん 【COCOS所属】 川崎 稀文さん 【水士里保全研究会所属】 榊原 拓実さん 【COCOS所属】



## COC事業名：「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築

### 学生主体で地域活性化を目指す

**奥田名誉教授** 我々がCOC事業の申請の際に目指したものは、学生を元気にするというものです。学生が主体的に地域活性化にむけた活動ができるよう、元気な学生を育成して、地域に送り込むというコンセプトでスタートさせました。

### 学生主体の地域活動「学生自主プロジェクト」

**奥田名誉教授** 学生が主体的に取り組む学生自主プロジェクトには大きく3種類あります。一つ目は「COCOS」で、大学がCOC事業採択後に立ち上げた学生団体です。二つ目は「サークル」活動に位置づけられるもので、学生たちが自主的に立ち上げたものです。三つ目は「ゼミ」となります。特に「COCOS」に関しては、顧問教員2名を置き、地域が抱えている問題を地域の方々と対話する中で探り出し、問題解決に至る活動を展開しています。具体的には、射水青年会議所（JC）との連携活動や、大学COC事業の広報誌の作成、アクティブラーニング協働スペースの管理、地域協働授業成果発表会の運営補佐、COCTA（ゼミでのCOC学習を低学年に教える）等を実施しています。

### 学生を応援する地域志向教育研究費

**奥田名誉教授** 昨年度からCOC事業で措置している地域志向教育研究費の中に、学生自主プロジェクト枠を設け、学生からの公募による地域活動プロジェクトを支援しています。平成27年度は5件、平成28年度は8件を採択しました。基本的には、いわゆるサークルの顧問のように指導教員が責任を持って学生を管理しますが、実質的には学生たちが自主的に動いてプロジェクトを遂行しています。

**上田係長** 採択に当たっては、審査会を実施しており、学長をはじめ、地域連携センター所長、キャリアセンター所長、学生部長、事務局長の審査員の前で、企画内容のプレゼンと質疑応答をしています。補助金上、学生団体に直接配分することはできませんので、指導教員と事務局で経費の進行管理を行っております。

### ゼミ形式で学ぶ地域協働科目

**奥田名誉教授** 本学の地域協働科目は、ゼミ形式であるところが特徴です。講義型の授業は、聞くことが中心となるため、地域協働科目としてふさわしくないのではないかと考え、やはり学生が地域に出て、考え、話し合うといったアクティブラーニング形式でなければ協働にならないということで、ゼミ形式としています。

**堺コーディネーター** しかしながら授業で協働という形と取るとなると、授業15コマのうちの1回や2回では到底実施することができないことから、現在、授業設計モデルを掲載した「教員向け運営マニュアル」を実践を重ねながら作成しているところです。

### 学生に成長を意識させるための評価

**奥田名誉教授** 地域協働科目の授業成果を検証するため「学生成長度評価」を実施しています。もちろん学生の成長を客観的に評価していくということもありますが、学生や教員に、この授業で何を伸ばしていくのかという事をしっかりと意識してもらうこと、

### 学生自主プロジェクト紹介

**榊原くん** 僕が所属する「COCOS」では、いみず祭りという射水市のお祭りが昨年度からあり、その中でCOCOSも何かやってみないかと青年会議所さんから話をいただいて、企画から参加し、流しそうめん当日のエンドロール作成を担当しました。

**川崎くん** 僕が所属する「水士里保全研究会」では、富山県のブランド柿（ふく福柿）がブランド品として認知されているのにも関わらず、収穫する人も少なく知名度も低いので、大学生が収穫に入ったり、HPを作成して情報発信することを通じ、それらの問題を解消しようと取り組みました。

**安久くん** 僕たちは小矢部市の観光促進について取り組んでいます。小矢部市の事をずっと見てきたなかで、課題点もいくつか見えてきました。その一つに、観光ブースの映像発信がありますが、現在、映像を管理している企業さんと新たな映像コンテンツをどのような形で流すか協議しています。

### 地域活動を継続して実施していくために

**安久くん** 昨年度、榊原ゼミでのCOC活動は、小矢部市の観光促進に関する調査報告と事業提案までで終了しました。でもそこまではどの大学でもできることなので、引き続き、工学部という強みを活かしたことができればと考え、昨年度の調査研究をもとに、観光コンテンツ作成と情報発信ツールの開発をするべく、地域志向教育研究費に申請し、榊原ゼミのグループ3名で活動を継続することとしました。

**川崎くん** 地域活動後には活動を次に生かせるよう、来年、もしやるならこういう事をやった方がいいんじゃないかと、開始時期を早めた方がいいんじゃないかななどの振り返りをするようにしています。自分たちは、農村や中山間地域に入って環境を守っていくことを目的としたサークルですので、この手のものは単発でただ実施すればいいというものではなく、長期的に実施していかなければいけないと考えており、メンバーはずっと継続していくつもりで活動には関わっています。

また、学生たちにも、単なる地域貢献ではなく、君たちの成長のためにやっているんだということを意識してもらうこと等を主たる目的として実施しています。所謂ルーブリック方式のもので、地域課題力・仲間とのコミュニケーション、対外的コミュニケーションの3つの観点（大項目）で、学生の自己評価と、担当教員による評価とコメントを付して、学生へフィードバックしています。平成26年度の後期から実施していますが、授業実施前と後では、すべての観点において成長がみられる結果となりました。



上田 明美係長 奥田 實先生 堺 勇人コーディネーター

地域に役立つ技術者マインド「工学心」で地域とつながる全学的取組み



**【教育】** 必修科目(少人数制ゼミ)に「地域協働授業」を導入。授業を通じて、学生が多様な地域関係者と対話・協働を重ね取り組む中で、主体性やコミュニケーション力、課題解決力等の育成を図ります。

**事例** 2年次ピックゼミにおける 植物種同定・里山散策アプリの開発

富山県呉羽丘陵において里山保全や環境教育を行っているNPO 法人「きんたろう倶楽部」と協働し、植物の葉から種を同定するアプリを開発しました。富山県中央植物園にて植物専門家からレクチャーを受けた後、1泊2日のハッカソン合宿を行い、学生はTAのサポートも受け、プログラム言語の習得から、評価アプリケーションの作成という極めて高いレベルの成果をえました。完成後、実際に小学生を対象とした里山学習のなかで活用し、ユーザー目線のフィードバックをえてさらなる改良を行いました。

ゼミ授業期間終了後も、モチベーションと協働先とのつながりを継続したいため、学生サークル「イメージトレイニー」を立ち上げ、つづけて呉羽丘陵散策アプリの開発にとりかかり、現在もその改良をかさねながら活動をつづけています。



**【研究】** 各研究室の研究シーズを活かし、様々な地域課題に対応した研究活動を行なっています。学生を積極的に参画させ、卒業研究等に結びつけています。

**事例** 地域の橋梁における新しい点検方法の適用と構造安全性の分析

高度経済成長期に一齐に建設された地域の橋梁等道路施設の急速な老朽化対策へ対応する研究を関連機関と連携して行いました。学生は実際に橋梁点検を体験し、さまざまな現場の情報や技術・知識を習得して卒業研究へとつなげました。

小規模鉄筋コンクリート床版橋を対象をしぼり、点検データの分析から橋梁劣化の種類、傾向、評価方法を整理し、劣化の進む橋梁の劣化度合いや耐荷性能や変形性能に与える影響を検討しました。

また、目視観察が困難な橋梁を想定し、撮影装置の開発も行いました。翌年は、旧富山大橋(1936年建設、2012年新大橋に架け替え)の劣化を調査・分析し、その結果は県の刊行物「富山大橋」に掲載されました。



地域協働研究会COCOS (ココス)



地域の公共交通を考える @五箇山



地元の祭りでフォトモザイク制作

地域協働授業運営マニュアル (教員向け)

地域協働授業を行なう教員へ向けて有志教員グループが作成。授業の組み立て方、心得、グループワークの手法など、4つの授業事例を交えて紹介しています。



学生成長度評価

**中項目**: 大項目ごとに3つの項目から選択  
※複数選択する場合は欄を追加して用いる。  
●地域課題力【理解する力 or 挑戦する力 or 起業する力】  
●仲間とのコミュニケーション力【伝える力 or 聴く力 or 問う力】  
●対外的コミュニケーション力【伝える力 or 聴く力 or 問う力】

**評価内容**: 担当教員が独自に設定  
例)「解決すべき課題を自ら発見できるか」  
「グループワークで自分の意見を発信できるか」  
「協働先で積極的に質問することができるか」  
※別紙「評価内容」(例)一覧参照

**A 評価の教員基準**: 担当教員が独自に設定  
例)「解決すべき課題を自分の言葉で説明できる」  
「活発なグループワークに貢献できる」  
「内容を理解した上で、疑問点をわかりやすく質問することができる」

**教員コメント**  
実施後、学生個々に達成状況等についてコメントを記入

**教員評価**  
実施後、設定した評価項目に対する学生個々の達成状況について S,A,B,C で評価  
S: 期待以上  
A: 満足できる  
B: おおむね満足できる  
C: 努力を要する

**【学生記入欄】**  
設定された評価事項に対し、実施前と実施後に S,A,B,C で自己評価  
A: よくできた  
S: できた  
B: まあまあできた  
C: あまりできなかった

■ 教員事前記入 ■ 教員事後記入

地域協働支援室 URL

<http://www.pu-toyama.ac.jp/coc/>

